

津消防タイムズ

第44号

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276編集 消防総務課
企画調整室
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
☎224-1881
救急医療情報案内
☎256-1199

↑平成21年度新町フェスタにて

○津市消防音楽隊

三十五周年

津市消防音楽隊は、創立から今年で三十五年が経過し、世代交代など新たなステージへと節目を迎えています。当隊の歴史は、昭和五十年六月に、その前進である「津市消防音楽クラブ」を二十二人で結成したことに始まり、同年十二月五日に「住民と消防を結ぶ音の架け橋」をスローガンに、現在の「津市消防音楽隊」として正式に発足しました。



↑出初式で行進する音楽隊

本年は、これまで培った三十五年の歴史の集大成として「津市の安全・安心のハーモニー」をテーマに、十二月十八日（土）に津リージョンプラザで記念演奏会を開催する予定です。これを機に今後、津市消防が更に一丸体制を強めるとともに、消防をより身近な存在として実感していただけるよう、また安全で安心して暮らせるまちづくりに貢献できるよう創意工夫を凝らした活動を実施していきます。（内藤貴人）



↑2009 防災のつどいみえで演奏する音楽隊

○津市長特別視閲を実施

四月五日、久居消防署で松田直久津市長による特別視閲が実施されました。

これは新年度を迎え、気持ちを新たにするとともに、消防行政運営上の基本理念である「非常時に機能し得る消防組織づくり」の一環として、有事への心構えを再認識するために行われたものです。消防本部や各消防署から職員一四五人が参加し、田中義久久居消防署長指揮の下、職員は一糸乱れぬ部隊行動を行いました。

松田市長が「訓練に励み、安心・安全な町づくりを目指して頑張ってください。」と訓示すると、参加した職員は、緊張した面持ちでこれに耳を傾けていました。(高橋直通)



↑視閲を行う松田市長

○ポンプ操法訓練始まる

津市消防団は、七月二十五日、三重県消防学校で開催される三重県消防操法大会に出場するため、日夜訓練に励んでいます。

このポンプ操法大会では、ホース延長やポンプ操作の速さ、正確さを競い、日頃の訓練の成果を披露することとしています。

津市消防団からは、小型ポンプ操法に安濃方面団が、ポンプ車操法に美杉方面団がそれぞれ出場する予定です。

【安濃方面団】小型ポンプ操法の部

- ▽指揮者 堀内 洋二
- ▽一番員 上村 晴寿
- ▽二番員 駒田 敬彦
- ▽三番員 中村 武



↑小型ポンプ操法で息を合わせる安濃方面団の団員

【美杉方面団】ポンプ車操法の部

- ▽指揮者 渡邊 孝史
- ▽一番員 池田 三朗
- ▽二番員 奥村 昌弘
- ▽三番員 米澤 秀樹
- ▽四番員 青木 直人
- ▽補助員 澤 功哲



↑ポンプ車操法で筒先をかまえる美杉方面団の団員

○アザリア分団発足式

四月十八日、美里総合支所で津市消防団美里方面団アザリア分団の結団式が行われました。村田ひとみ分団長以下十四人は、多数の来賓出席の中、谷口繁喜消防団長、田中千福市会議員の祝辞を拝聴した後、村田分団長が代表して「地域住民の生命、財産を守っていききたい。」と、災害出動、火災予防活動への決

意を述べていました。(木村正士)



↑写真撮影を行い、今後の発展を祈念しました。

○高茶屋地区交通安全フェスティバルに参加

五月十六日、三重中央自動車学校(高茶屋)で関係機関が参加して高茶屋地区交通安全フェスティバルが開催されました。このフェスティバルは、「地域の交通・災害の安全を願い、子どもから高齢者までふれあいと交流の場とする」ことを目的に、平成十三年から毎年開催されているものです。

久居消防署南分署では、消火体験、煙体験、応急手当の知識、ミニ消防車と記念撮

影、消防車両の展示コーナーを開設し、多くの子どもから高齢者まで、火災予防や応急手当を学んでいました。(飯田仁)



↑消火体験で的のめがけて放水する子供たち

○大震災に備えて!

五月十六日、上野小学校グラウンド(河芸町上野)で上野自治会の防災訓練が開催されました。

訓練は、大規模地震が発生したとの想定で行われ、避難訓練では、一人暮らしの高齢者や体の不自由な方の支援、避難困難者を把握するため、自治会長への報告が行われました。その後、初期消火訓練、応急処置、応急担架作成などを実施しました。東海・東南海・南海大地震の発生が危惧される中、約二百人

の参加者は終始熱心に取り組んでいました。(西田康文)



→訓練に参加した自主防災会と消防団員



↑応急担架の作成を行う参加者

○防災航空隊との連携を図る

防災へりによる緊急患者搬送の増加に伴い、消防職員と航空隊員の連携強化と実践的な誘導要領の再確認のため、四月二十一日、北消防署で三重県防災航空隊から講師を迎え、研修会を開催しました。

県防災航空隊の増田裕彦隊員(津市消防から派遣隊員)から「防災へりの特徴」や「緊急患者の搬送要領」について説明があり、離着陸時の手信号での誘導手順、無線誘導要領、気象状況及び飛行障害物状況などの地上支援交信の方法等、緊張の中での研修会となりました。

訓練終了後、増田隊員は「海や山間部の多い北消防署では、救助や消火にへりが必要なケースが多いので、今日学んだことを現場で生かしてほしい。」と述べていました。

山林火災や山岳事故で、消防隊員のみでの消火・救出活動は非常に困難で、今後も防災へりと連携した活動が重要であるため、参加した職員は真剣に訓練に取り組みんでいました。(川口勇氣)



↑防災航空隊指導のもと、誘導訓練を行う北消防署職員

○最新鋭の消防車両で訓練

四月二十八日、中消防署で、今年二月に導入したキャプスを装備した車を使用し、訓練を実施しました。

キャプスとは、車体内のコンプレッサーを使い、空気を圧入し放



↑キャプスから泡放水を行う中消防署職員

射する装置で、そのため少量の水で高い消火能力を発揮します。訓練は、キャプスの特徴である泡を使用した消火訓練とPPVと呼ばれる排煙機を使用した訓練を実施しました。

多種多様化する災害に立ち向かうための知識、技術の向上と隊員の安全管理、現場指揮について再確認しました。参加した署員たちは緊迫感に満ちた表情で、「最新鋭の車両で、より一層の体制強化に努めたい。」と述べていました。(大市昌広)



○大規模シヨッピングモール オープンに伴う訓練を実施

四月十二日、イオン津城山ショッピングセンター（久居小野辺町）でオープンに伴う防災訓練を実施しました。

訓練には従業員約二百人が参加し、避難誘導訓練や初期消火訓練、心肺蘇生法、AED取り扱い訓練などを実施し、終始真剣に取り組んでいました。

参加した従業員は、「今回は特に問題も無く訓練を実施できました。実際に災害があれば今回の訓練を思い出し、お客様の安全を確保するとともに、火事等を出さないように日頃から火災予防を心がけていきたい。」と述べていました。（笠井敦史）



↑AEDを使った心肺蘇生法に真剣に取り組む訓練参加者

○医学留学生が 救急研修に来署

久居消防署で、四月二十二日、二十六日に三重大学医学部の留学生、ジェイソン・ジョージさんとサイモン・カトリさんが臨床実習の一環として救急車同乗実習を行いました。

日本の救急医療を勉強するとともに、通信指令センターの見学、津市の救急医療体制や救急資器材について学びました。

二人はアメリカのウエイン州立大学の学生で、この留学終了後、アメリカで医師として働くことが決まっており、「日本での経験を生かして、第一線で一人でも多くの患者を救いたい。」と述べていました。（岡珠理）



↑救急車の資器材の説明を受けるジェイソンさん

○水難救助隊員任命式

水害や水難事故のシーズンを前に五月十八日、津市消防本部で中西秀



↑水難救助隊員任命で決意表明を述べる岸田水難救助隊長

輝消防長から職員十五人に平成二十二年水難救助隊の指名書が交付されました。

隊員は、潜水をはじめとする過酷で特別な訓練を終了した職員から選抜され、中西消防長は、「昼夜企足して怠らざるべし」（有事即応の姿勢を常に持つ意）という先人の教えを實踐するとともに「スピード、チームワーク、セーフティ」を念頭に活躍してほしい。」と訓示し、岸田陽次水難救助隊長が「水難救助のプロとしての使命を果たすため、心、技、体の練磨に努めたい。」と力強く決意を述べました。

津市消防の水難救助隊は、隊長、副隊長の交替を行うなど新しい布陣で、住民の安全・安心の確保に努めます。（平子泰史）

○消防職員意見発表 三重県大会で熱く語る

四月九日、第三十三回三重県消防職員意見発表会（三重県消防長会主催）が熊野市文化交流センターで開催されました。

津市消防からは、久保田芳史消防士（中消防署西分署）が代表として出場しました。久保田消防士は「命を守るためにできること」と題し、自ら火災出動した経験を基に、住宅用火災警報器の設置の必要性と今後の消防人としての意気込みを力強く発表しました。結果は優秀賞で惜しくも東海大会への出場は逃しましたが、久保田消防士は「日々自己研鑽に努め、地域に根付いた消防士として活動していきたい。」と述べていました。（高橋直通）



↑力強く発表を行う久保田消防士

がんばれ、未来の救助隊！ 障害突破チーム



八月三日、三重県消防学校で行われる第三十九回消防救助技術東海地区指導会に出場する障害突破チームと引揚救助チームを紹介します。

障害突破チーム

障害突破は、五人一組で高塀、はしご、ロープ渡過、緊急脱出、煙道と次々と障害を突破し、そのタイムと確実性を競う競技です。

▼一番員 田上祐馬

思う存分訓練できる環境を与えていただいていることに感謝し、訓練の成果を現場活動に生かせるよう頑張ります。

▼二番員 中田裕次郎

障害突破訓練を通じて気力・体力を向上させ、救助技術を磨きます。

▼三番員 前山卓大

チームワークを第一に、厳しい訓練を通じて得た経験を現場で生かします。

▼四番員 溝口裕貴

市民の安心・安全を守るため、日々訓練に精進します。

▼五番員 久保田芳史

全国大会目指して頑張ります。

新たな挑戦が今始まる 引揚救助チーム



引揚救助チーム

引揚救助は、五人一組で、塔上から呼吸器を着けて降下し、要救助者を引揚げ救出後、登はん脱出するまでのタイムと確実性を競う競技です。今年から新たに参加する種目です。

▼一番員 野呂佳宏

日々訓練に精進し、知識、技術、体力の向上につなげていきます。

▼二番員 小林隆幸

厳しい訓練を通じて自分に負けない強さを身につけていきます。

▼三番員 山本貴之

訓練を通じて技術を向上し、市民を守る力を高めていきます。

▼四番員 堤裕紀

訓練の中で学んだことを一つずつ身につけ、技術の向上につなげるとともに、精神力も養っていきます。

▼要救助者 山本文章

指導会研修を通じ、救助技術の向上につなげていきます。

○津市消防から十人が入校

三重県消防学校の第四十七期消防職員初任科教育の入校式が四月七日、鈴鹿市石薬師町の同校で行われ、八十三人の初任科生が入校し、津市消防からは十人の新規採用者が消防職員としての第一歩を踏み出しました。

入校生は、県内十五の消防本部に今春採用された女性四人を含む八十三人。これから約六か月間の厳しい学校生活が始まり、座学では法令や服務、消防の基本戦術や特殊災害の対応まで幅広く勉強します。また訓練ではロープ結索やホース延長、資器材取扱訓練に始まり、終盤には想定訓練など実際の災害現場に即した訓練を行い、技術を磨きます。さらに寮生活を共にすることにより、規律やチームワークを大切にする精神を養います。その後、約二か月間の救急課程教育を受け、救急隊員としての知識や技術を身につけ、十二月には各所属に配属されます。



↑力強く宣誓文を読み上げる奥野消防士

入校式には、多数の関係者が出席し、津市消防の奥野豪消防士が力強く宣誓文を読み上げると、渡辺博史校長が「校訓の規律、忍耐、信頼、創造を大切にするように」と祝辞を述べられました。津市消防の未来を担う若き消防士十人に期待したいと思います。（西尾朋也）



↑平成22年度津市消防新規採用者10人（後列）

『危険物安全週間』

六月六日～六月十二日

津市消防では、危険物安全週間中、危険物施設に対する特別査察や消防訓練を実施し、火災事故の防止を呼びかけます。

ところで、みなさん“『危険物』とは一体どういうものかご存じですか？危険物とは消防法で定められており、一般的に次のような危険性を持った物品をいいます。

- 一 火災発生の危険性が大きい
- 二 火災拡大の危険性が大きい
- 三 消火の困難性が高い

例えば、ガソリン、灯油、油性塗料などが『危険物』に該当します。これらは消防法によってその取り扱いや保管方法が厳しく規制されています。

一方、私たちの身の回りには、危険物には該当していませんが、燃えやすいものがたくさんあります。いわゆる可燃性物質と言われるもので、整髪料・殺

虫剤などのスプレー缶、カセットコンロ用ガスボンベ、マニキュア液、接着剤などが、火気に対して注意を要するものです。

これらは、いずれもちょっとした火種で、火災や爆発などの事故を引き起こす危険性をもっています。この機会にみなさんの家庭でも危険物チェックを行ってみてください。（予防課危険物担当 妹尾典宏）

平成二十二年危険物

安全週間推進標語

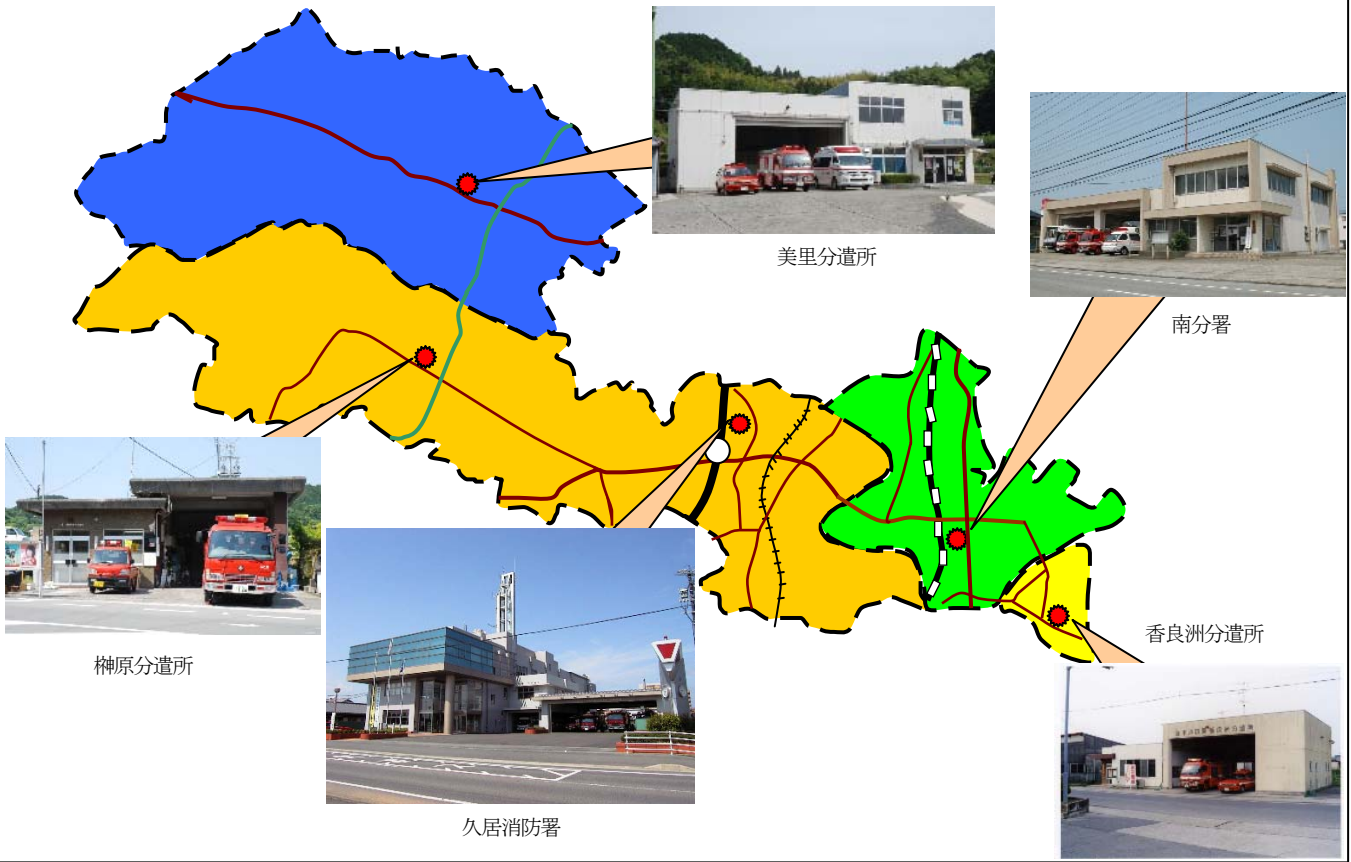
危険物

事故は瞬間

無事故は習慣



特集！消防署紹介 久居消防署



久居消防署



久居消防署
署長 田中義久

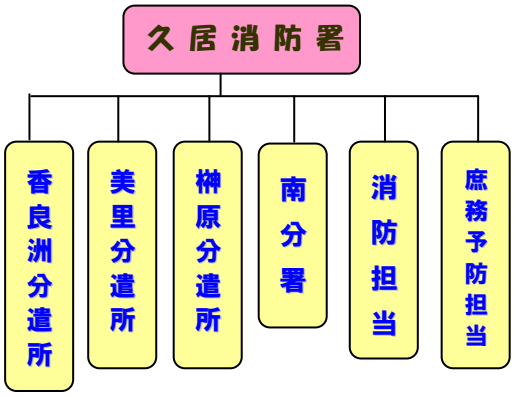
久居消防署は、久居明神町の津市消防本部庁舎一階にあります。四月の組織改正により、一署、一分署、三分遣所と市内最大規模の消防署となりました。

管轄区域は、古い町並みの残る久居の市街地、大型ショッピングセンターなどで栄える高茶屋地区、温泉で有名な榊原町、松林がきれいな香良洲町、青山高原を望む美里町などで東西約二十五キロメートルに及びます。管内の特色は、東部は、潮干狩りや海水浴で多くの観光客が訪れる御殿場海岸や香良洲海岸があり、西部は経が峰や青山高原といった美しい山々が広がり、榊原温泉は日本三名泉の一つに挙げられ有名です。

また伊勢自動車道、国道二

三号、一六五号といった主要道、近鉄名古屋線、JR紀勢本線などがあります。そのため、山岳救助や水難事故、交通災害といった多種多様な災害対応が求められています。

現在久居消防署には、署長以下八十七人が勤務し、「風とおしの良い職場づくり」を署風とし、隊員たちはいつ訪れるかもしれない災害に対応するため日々訓練に励んでいます。



○津市消防本部人事異動

【四月一日付異動】

○部長級

消防次長兼久居消防署長（消防次長） 田中義久

○部次長級

調査担当 参事兼消防総務課長（企画広報担当 参事） 藤岡幸次
調査担当 参事兼消防団担当 参事（消防団調整担当 参事） 岸田廣己
▽調査担当 参事兼予防課長（久居消防署長） 橋本宏
▽調査担当 参事兼消防課長（調査担当 参事兼消防救急課長） 蒔田幸弘
▽調査担当 参事兼通信指令課長（指導担当 参事兼予防課長） 鈴木美昭
▽中消防署長（調査担当 参事兼消防総務課長） 山本卓美
▽北消防署長（情報管理担当 参事兼通信指令課長兼調整・情報管理担当主幹） 小倉克仁

【三月三十一日付退職】

中消防署長・稲田清貞
▽北消防署長・坂井久義
▽白山消防署長・長谷川雄一
▽北消防署副署長・岡金次郎
▽中消防署安濃分遣所長・鈴木幸男
▽中消防署香良洲分遣所長・世古吉正
▽白山消防署調整・庶務予防担当主幹・長谷川好往
▽香良洲分遣所副主幹・中山修一
▽香良洲分遣所主査・竹村要一
▽北消防署庶務予防担当・山川友通
長い間お疲れ様でした。

住宅用火災警報器が火災を未然に防いだ！

五月十二日、津市消防管内で、台所のガスコンロの火を消し忘れて外出したため、煙が充満し、住宅用火災警報器が感知したが、鍋を焦がしたのみで大事には至らなかった事案が二件連続して発生しました。

このように、住宅用火災警報器は火災を未然に防ぎます。まだ設置されていない住宅は、早急に設置していただくとともに、外出時や就寝時には必ず火の元を確認するように励行しましょう。

カメラアングル



→五月十八日、消防救助技術東海地区指導会に向けての団結式



→五月十九日、久居消防署に職場体験に訪れ放水訓練を行う久居西中学校の生徒

☆ 主な行事予定 ☆

- ◆六月十日（日）津・松阪消防合同水難救助訓練（雲出川河口）
- ◆六月二十日（日）消防団中勢支会夏期訓練（メッセウイングみえ）
- ◆六月二十日（日）上級救命講習（北消防署）
- ◆七月二十五日（日）三重県消防操法大会（三重県消防学校）
- ◆八月三日（火）第三十九回消防救助技術東海地区指導会（三重県消防学校）

ご家庭に住宅火災警報器を設置しましょう！

消防法の一部改正及び火災予防条例の改正により、平成20年6月から住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。



～平成22年5月末日までの災害～

火災	41件 (41件)
救急	4,860件 (4,730件)
救助	51件 (68件)

() 内は前年同期

○編集後記

みなさんゲリラ豪雨をご存知でしょうか？最近テレビや新聞でよく耳にします。これは、発達した積乱雲の影響で局地的に一時間に数十ミリといった猛烈な雨が降り、ときには百ミリを超えることもあります。このゲリラ豪雨により毎年多くの方々が犠牲になっていきます。二年前の神戸市の川では鉄砲水が押し寄せ、五人の方が犠牲になりました。近年の温暖化やエルニーニョ現象により激しくなってきたとも言われています。これから夏に向けて、川でのレジャーや登山など自然を楽しむ機会が増えてきます。突然の鉄砲水やがけ崩れに巻き込まれないよう、日頃から気象情報などに注意するよう心がけましょう。（高橋直通）